

社会課題の解決に向け新たなビジネス創出

立教大学社会デザイン研究所
JSOL

社会デザイン・ビジネスラボ始動

社会課題の解決に向け、さまざまな専門性を持つ社会人らが知恵を出し合って新たなビジネスを創出する研究会が動き出した。立教大学社会デザイン研究所とJSOLが昨年12月に立ち上げた「社会デザイン・ビジネスラボ(SDBL)」が7月9、16の両日、「食」をテーマにした第1回研究会「これ

からの『食』を考える」を開催、ワークショップを通じてアイデアを深掘りしながらチームごとにビジネスプランを練り上げた。この中から事業化に向けて推進すべきと評価されたプランがビジネス化検証フェースに進んだ。10月8日に最終発表会が開かれる。

チームに分かれ「食」に関する課題に挑む

「熱い思いを持つ人が集まつた。楽しながらも脳に汗をかいてビジネスをしっかりと考えてほしい」

新型コロナウイルスの感染拡大で延期されていた第1回研究会の初日、SDBL事務局長の三尾幸司・JSOL社会イノベーション推進センター長は、東京・大手町の3×3 Lab Future(さんさんらぼ・フューチャー)に集まった30人強に檄を飛ばした。

国連の持続可能な開発目標(SDGs)やESG(環境・社会・企業統治)経営に关心を持つ企業人や社会起業家、社会に貢

献したいNPOなど社会活動と企業のネットワークをつくりたい人たちだ。

食糧不足、アレルギー、フードロス、食習慣の変化、農業(労働環境・労働人口)――。7チームに分かれた参加者の前に今回の「食」に関する社会課題がずらりと並ぶ。

各自がまず得意だったり、専門的知見を持ったりする課題についてのキーワードを書き出していった。それを元に一人ずつアイデアを披露しながらグループディスカッションを始めたが、マスク越しに身ぶり手ぶりを交えながら説明。初対面同士



各チームとも初対面同士とは思えないほど意見交換は熱を帯びた

とは思えないほど意見交換は熱を帯び、チームごとに机の上に置かれた紙は時間の経過とともに、互いに新たに思いついたキーワードを書いた付箋を貼り付けたり、直接書き込んだりしていっぱいになった。

このワークショップは「JSOLオープンいのべ場」というフレームワークを活用する。イノベーションに関する方法論を組み合わせて同社がアレンジ。アイデアを出しやすく、ソーシャルビジネスが実践しやすいことを重視した手法だ。

侃々諤々の議論をみていたSDBL会長を務める中村陽一・同研究所長は「知恵を出し合いで、面白い話をしている。皆さんのが表情がいい」と満足げだった。というのも、冒頭の挨拶で「ウイズコロナ、アフターコロナ下の新たな課題を、デジタル技術と社会デザインを融合したDSX(デジタル&ソーシャル・トランスポーテーション)で解決したい。この社会実験へのアクションに皆さんを誇りたい」と語ったばかりだが、その手応えを感じたからだ。

SDBLは1テーマについて2回のセッションを行う。初日

は、参加者から「こういうアイデアがある」「うちの会社はこういうリソースがあるから活用できるのでは」という提案の場で、「脳に汗をかく発散がベース」(三尾氏)。2日目はアイ

デアを元にビジネスモデルを検討する議論を本格化させる。両日とも、テーマについて実際に取り組んでいる企業経営者らが講演、アイデアを深掘りするヒントにしてもらう。

セッション終了後も議論重ねる

選ばれた。

中村氏は「無から有を生み出すのは難しいが、既存の類似ビジネスと組み合わせたり、組み直したりして新しいビジネスをつくる。そのためには『食×〇〇』で持続的に成長するエコシステム(生態系)を実現することだ」と総評。その上で「セッション終了後もビジネス化に向けて進めてほしい」と今後の展開を期待。これを受け三尾氏は「ビジネスプランをベースに深掘りしプラッシュアップする」と述べ、継続的に取り組みたいメンバーによるビジネス創出チームを編成。ワークショップを開きながら10月8日まで議論を重ねていく。

第2回研究会は「防災対応」をテーマに10月9、23日に開催する予定。



ワークショップの様子を絵で表現



優秀賞には食と旅をテーマにした健康増進ツーリズム「Theobroma Hermes」が選ばれた



社会デザイン・ビジネスラボ会長(立教大学社会デザイン研究所長) 中村陽一氏

「参加者の知恵集まる」中村会長

昨年12月に社会デザイン・ビジネスラボ(SDBL)を立ち上げると、参加企業は20~30社と思っていたが、これまでに100社超が参加し、サポート企業は約20社に拡大し驚いている。持続可能な開発目標(SDGs)を契機に、多くの企業がソーシャルとのコラボが生き残りに欠かせないと考えるようになったからだ。

SDBLが目指すのは、個人・企業からの参加者がその専門性に基づき自由に話し合ったアイデアを具現化してソーシャルビジネスを創出し、社会課題の

解決と持続可能な社会を実現することだ。

試行錯誤の段階だが、第1回研究会「これからの『食』を考える」でのディスカッションをみていると、参加者の知恵が集まっていると感じる。事務局とは常にメールなどで協議しイノベーションを生み出したいと考えている。そしてビジネスモデルを2つ、3つ創り上げる。複数企業が参加して共同チームをつくり、ビジネス機会を生み出すというのは新しい試みなので、戸惑いながらも前に進めていく。是非成功させたい。